

令和 2年度 杉並区事務事業評価表（2）

令和元年度 事業実施状況（D o）

整理番号 245

主な取組	内 容	規模	単位	事業費（千円）
	青少年育成委員会活動への助成		17	件
	青少年善行表彰の表彰状授与及び記念品の贈呈	288	件	792
	すぎなみ舞祭、ボーイスカウト等共催事業の開催	10	件	2,798
	その他（青少年育成委員会に係る消耗品の購入及び郵送料）			236
事業実績	<p>○区内17団体の青少年育成委員会に対し助成を行い、青少年健全育成事業の実施を促進しました。 事業数：310 参加人数：延べ70,100人（昨年度313事業、延べ80,292人）</p> <p>○青少年善行表彰は個人、団体合わせて288件、1,178人を表彰しました。（昨年度307件、1,292人）</p> <p>○すぎなみ舞祭は青少年健全育成に関わる団体と地域協力者等で実行委員会を組織し、下高井戸おぞら公園で開催しました。来場者：延べ12,500人（前回12,000人）参加者：1,143人（前回1,051人）</p>			

令和元年度 評価と課題（C h e c k）

事業開始当初から現在までの環境の変化と事業に対する意見（期待・要望・苦情等）	<p>【青少年育成委員会委員数／事業参加者数】 H29：961名／85,732名 H30：948名／80,292名 R1：965名／70,100名 青少年育成委員会の主催事業については様々な体験活動や交流活動を子ども達に提供することで、地域における青少年の健全育成にとって不可欠な位置づけとなっています。</p> <p>【青少年善行表彰 表彰延べ数（個人／団体）】 H29：124名／25団体 H30：280名／27団体 R1：243名／45団体 青少年善行表彰は、表彰を受けることで青少年が自ら進んで継続的に善行に取り組むきっかけとなっており、推薦者や学校関係者から肯定的な意見が寄せられています。</p>
事業の今後（3～5年）の予測と方向性	<p>青少年育成委員会は、地域住民や学校関係者を中心に組織され、長年にわたり青少年の健全育成に資する取組を続けてきました。今後もこうした取組が維持されるよう、支援を継続していきます。</p> <p>青少年善行表彰は、被表彰者自身の励みになるとともに、他の青少年の模範となり、善行を促進する取組となっています。こうした善行の気運を高めるためにも表彰を継続していきます。</p> <p>青少年の健全育成を目的とした事業の中には、すぎなみ舞祭のように地域振興としての側面を持つ事業もあるため、地域住民や関係団体の声を聴きながら、引き続き実施・支援していきます。</p>
計画（目標値）に対する実績（指標の分析等）	<p>青少年育成委員会の総事業数が目標に達していないことから、その参加者数も目標値に届きませんでした。育成委員会の構成員の固定化や、事業内容の硬直化なども影響し、目新しい事業が行い難い状況にあることも原因と考えられますが、一方では親子二世代に渡って同じ事業に参加できたことを喜ばれるなど、永年変わらないことで評価されている側面もあります。</p> <p>青少年善行表彰の件数については目標値を大きく上回る結果となっているため、今後も善行の気運を維持できるよう取組を継続していきます。</p> <p>すぎなみ舞祭等の共催事業への参加者数は目標とする人数に達しており、青少年の健全育成としてより効果的な内容となるよう引き続き充実を図ります。</p>
評価と課題	<p>青少年育成委員会は、長年にわたり青少年の健全育成に貢献してきましたが、充実した活動を維持し続けるためには、構成員の固定化や事業内容の硬直化が共通の課題となっています。他の青少年育成委員会との連携を強化し情報を共有することで、新たな取組へのきっかけとなるような活動報告会の開催など新たな支援策に取り組みます。</p> <p>青少年善行表彰は、表彰数も年々増加し、青少年の善行に対する気運醸成の効果がある一方で、被表彰者の増加に伴い、表彰式の開催方法等については検討が必要です。</p> <p>青少年の健全育成を目的としたすぎなみ舞祭等の共催事業は、適正な事業のあり方や実施規模等を見定めつつ、参加者の増加に繋がるよう内容の充実に努めます。</p>

令和 3年度の方針（A c t i o n）

予算の方向性（見直しの視点）	I. 事業コストの方向性	現状維持
	II. 事業の改善の方向性	手段・方法の見直し（改善）
予算の方向性の理由・内容	<p>青少年の健全育成を目的に活動する団体に対しての助成は、より効果的な効果が得られるよう、現状の組織体制や事業運営等の実態を踏まえ、実情に見合った支援や助成を行います。</p> <p>青少年善行表彰や、すぎなみ舞祭をはじめとする青少年の健全育成に関わる事業は、事業規模とその効果等を見定めながら実施していきます。</p>	

令和 2年度 杉並区事務事業評価表 (2)

令和元年度 事業実施状況 (D o)

整理番号 246

主な取組	内 容	規模	単位	事業費 (千円)
	成人祝賀のつどいの実施		1	回
	仕事や将来に関するアンケート (高校2年生対象) の実施	16	校	31
	青少年地域情報サイトの運営業務委託			491
	その他 (消耗品の購入、郵送料等)			310
事業実績	<p>成人の日に「成人祝賀のつどい」を午前・午後の2回に分けて杉並公会堂で開催し、対象者の4割を超える2,140名が参加しました。</p> <p>区内の高校19校のうち協力を得た16校に在籍する高校2年生を対象に、将来の夢や仕事に関するアンケートを実施し、4,412名から回答を得ました。</p>			

令和元年度 評価と課題 (C h e c k)

事業開始当初から現在までの環境の変化と事業に対する意見 (期待・要望・苦情等)	<p>若者の引きこもりや、経済の停滞等による将来への不安が社会的な問題となっています。また、少子高齢化が一層進み、若者一人ひとりにかかる社会的責任や期待は大きくなっています。このような状況の中、若者の自立支援のための取り組みの重要性が増えています。</p> <p>成人祝賀のつどいの参加者からは、式典を通じて、大人としての責任感や自覚が芽生えるきっかけとなったなどの意見がありました。</p> <p>高校2年生を対象としたアンケートでは、将来の夢や目標を「持っている」または「今は無いが、持つ必要は感じている」と回答する割合は約90%と高い割合で一定しています。一方で、多忙なことからアンケートへの協力に難色を示す学校もあります。</p>
事業の今後 (3~5年) の予測と方向性	<p>成人祝賀のつどいの過去10年間の参加率は、45%~50%で推移しています。今後も同様の参加率が見込まれますが、外国籍の方も含め、より多くの参加となるよう、新成人のニーズに即した改善に努めます。また、令和4年度の成人年齢引き下げを前に、対象年齢や開催時期など、成人式のあり方について検討していきます。</p> <p>若者の自立支援や社会参加を促す取組は今後も不可欠であり、時代に即した改善を図りながら推進していきます。</p>
計画 (目標値) に対する実績 (指標の分析等)	<p>成人祝賀のつどいの参加者数は例年同様で推移しているため、引き続き、より多くの新成人に参加してもらえる催しとなるよう、ニーズに即した改善に努めます。</p> <p>区内高校の2年生を対象としたアンケートは、区内19校のうち3校から協力が得られなかったため、回答者数が減少しました。設問内容や実施時期などを見直し、学校にも有益となるよう改善することで、協力校を増やすとともに回答者数増に繋げ、より充実した結果が得られるよう努めます。</p> <p>また、アンケートの回答に占める、将来の夢や目標を「持っている」または「今は無いが、持つ必要は感じている」という回答は、約90%の割合で推移しています。引き続き、次世代を担う高校生の声により効果的に区の施策に活かせるよう努めていきます。</p>
評価と課題	<p>成人祝賀のつどいは、参加者からの喜びや自覚が芽生えたとの声のほか、参加者周辺の大人からはイベント化しない式典としての形を評価する声も聞かれました。今後は、成人年齢引き下げ後の開催方法について見直しが必要です。他自治体の動向や区民意見等を踏まえ、慎重に検討していきます。</p> <p>将来の夢と仕事に関するアンケートは、高校生の率直な意見を聞くことができ、一定の成果を得ていますが、5年毎に実施している青少年実態調査との統合も含めた実施方法等を検討します。</p> <p>また、これまで事業内容の見直し等を行い、青少年の健全な育成にかかわる事業のスクラップアンドビルドを進めてきたことから、本事業は次年度より「青少年育成 (整理番号245)」への統合を行う予定です。</p>

令和 3年度の方針 (A c t i o n)

予算の方向性 (見直しの視点)	I. 事業コストの方向性	現状維持
	II. 事業の改善の方向性	手段・方法の見直し (改善)
予算の方向性の理由・内容	<p>成人祝賀のつどいは、行財政改革推進計画に基づき、引き続き配布物等での広告掲載による歳入確保を図ります。</p> <p>将来の夢と仕事に関するアンケートは、5年毎に実施している青少年実態調査との統合も含めて、実施方法や内容を検討していきます。</p>	

令和 2年度 杉並区事務事業評価表 (1)

(00270)

事務事業名称	学童クラブ事業	款	04	項	02	目	01	事業	034	整理番号	272	
現担当課名	児童青少年課	係名	管理係			連絡先電話番号	4402		昨年度整理番号	282		
上位施策No・施策名	24 子ども・青少年の育成支援の充実						予算事業区分	既定事業				
事業開始	昭和39年度	実行計画事業	目標	05	施策	24	計画事業	02	主要事業 (区政経営報告書掲載事業)			
令和元年度担当課名	児童青少年課						事業評価区分	一般				

令和元年度 事務事業の概要 (Plan)

対象	保護者が就労等で昼間留守家庭となる区内在住・在学の小学生	根拠法令等	(1) 児童福祉法第6条の3第2項 (2) 杉並区児童青少年センター及び児童館条例、同施行規則
事業の目的・目標 (対象をどのような状態にしたいのか)	○家庭、学校、地域等との連携の下、発達段階に応じた主体的な遊びや生活が可能となるよう、児童の自主性、社会性及び創造性の向上、基本的な生活習慣の確立等を図るなど、児童の健全育成支援を目的とする。	活動指標	学童クラブ数
活動内容 (事務事業の内容、やり方、手段)	○児童一人ひとりが尊重され、安心して安全に、楽しく過ごせる放課後等の集団生活の場を提供する。 ○児童の受入時間 平日 下校時から午後6時まで (延長利用は午後7時まで、学校休校日は午前8時から受入) 土曜日 午前8時30分から午後5時まで 休業日 日曜、休日、年末年始	指標名 (1)	受入可能枠
		指標説明	4月時点の受入可能枠
		成果指標	入会児童数
		指標名 (1)	4月時点の入会児童数
		指標説明	待機児童数
		指標名 (2)	翌年4月時点の待機児童数
		指標説明	

指標、総事業費・コスト把握 (Plan・Do)

区分	単位	平成29年度	平成30年度		令和元年度		令和2年度	令和元年度	令和元年度	
		実績	計画	実績	計画 (目標値)	実績				対計画比 (%)
活動指標 (1)	1 か所	49	48	48	47	47	45	100.0	96.4	
活動指標 (2)	2 人	4,495	4,669	4,669	4,930	4,930	5,316	100.0		
成果指標 (1)	3 人	4,172	4,703	4,324	5,033	4,604	5,163	91.5		
成果指標 (2)	4 人	255	0	228	0	242	0	0.0		
事業費	5 千円	431,849	489,623	477,834	617,007	594,776	856,663	特記事項		
(内) 投資的経費等	6 千円	0	0	0	0	0	0			
(内) 委託費	7 千円	400,511	453,751	444,398	576,415	561,735	816,690			
職員数	常勤職員数 (再任用含)	8 人	89.20	85.20	89.61	85.40	96.60	88.20		
	上記以外の職員	9 人	32.00	30.40	31.00	29.70	31.00	26.10		
人件費	常勤職員分 (再任用含)	10 千円	749,665	707,807	739,086	706,008	825,279	746,984		
	上記以外の職員	11 千円	94,208	89,498	95,759	91,743	95,480	80,388		
総事業費 (5+10+11)	12 千円	1,275,722	1,286,928	1,312,679	1,414,758	1,515,535	1,684,035			
単位当たりコスト ((12-6)÷1)	13 円	26,035,143	26,811,000	27,347,479	30,101,234	32,245,426	37,423,000			
財源	受益者負担分	14 千円	174,146	185,207	184,061	208,819	206,322	218,209		
	国からの補助金等	15 千円	175,110	175,110	174,311	176,439	193,548	202,998		
	都からの補助金等	16 千円	175,110	114,824	174,311	176,439	193,548	202,998		
	その他の補助金等	17 千円	0	0	0	0	0	0		
	特定財源計 (14+15+16+17)	18 千円	524,366	475,141	532,683	561,697	593,418	624,205		
差引: 一般財源 (12-18)	19 千円	751,356	811,787	779,996	853,061	922,117	1,059,830			
受益者負担比率 (14÷12)	20 %	13.7	14.4	14.0	14.8	13.6	13.0			

令和 2年度 杉並区事務事業評価表 (2)

令和元年度 事業実施状況 (D o)

整理番号 272

主な取組	内 容	規模	単位	事業費 (千円)
	学童クラブ運営業務委託		14	所
	民間学童クラブ運営費助成	2	所	22,082
	おやつ代助成	458	人	8,555
	その他 (事務費ほか)			7,865
事業実績	<p>区立学童クラブ (区直営33クラブ、委託14クラブ) の運営のほか、民間学童クラブへの運営費補助や学童クラブを利用している就学援助受給世帯等へのおやつ代助成を実施しました。また、平成31年4月より全区立学童クラブにおいて、利用時間の延長を実施しました。</p> <p>増加する学童クラブ需要に対応するため、8所の学童クラブにおいて小学校内への移設や施設の改修等を進め、386名の受入数を拡大するとともに、令和2年4月から新たに3学童クラブ (杉九・高円寺学園・浜田山) の運営を委託するため、事業者の公募・選定や引継ぎ等の準備を進めました。</p>			

令和元年度 評価と課題 (C h e c k)

事業開始当初から現在までの環境の変化と事業に対する意見 (期待・要望・苦情等)	<p>共働き家庭の増加や核家族化の進展等による保育需要の高まりに連動し、学童クラブ需要も年々増加しています。入会児童数は、この10年間で約1.6倍となり、約1,700人増加しています。</p> <p>【入会児童数】 平成22年4月：3,103人 平成30年4月：4,324人 平成31年4月：4,604人 令和2年4月：4,851人</p> <p>【待機児童数】 平成22年4月：20人 平成30年4月：255人 平成31年4月：228人 令和2年4月：242人</p> <p>「学年が上がると学童クラブに入れなくなることがある。希望する者は、必ず入会できるようにしてほしい」等の意見が寄せられています。</p>
事業の今後 (3~5年) の予測と方向性	<p>当面は保育需要に連動する形で、学童クラブ需要も増加していくと予測されるため、将来的な需要見込みに基づき、学童クラブの受入数の拡大を図ります。</p>
計画 (目標値) に対する実績 (指標の分析等)	<p>待機児童を解消するため、小学校内への移設や施設の改修等を計画的に進め、8所の学童クラブにおいて386名の受入数の拡大を図りましたが、全体として242名の待機児童が発生しました。</p>
評価と課題	<p>増加する学童クラブ需要に対応するため、8所の学童クラブにおいて小学校内への移設や施設の改修等を計画的に進め、386名の受入数の拡大を図りましたが、学童クラブは児童の自力通所であることから、局所的に待機児童が発生し、全体として待機児童の解消には至りませんでした。今後とも、各学童クラブの状況等に応じて受入枠の拡大を図っていきます。また、保護者が安心して働きながら子育てができるよう、平成31年4月から全学童クラブにおいて、利用時間の延長を図りました。</p> <p>学童クラブの活動は、子ども同士の交流や遊びが主体であり、新型コロナウイルス感染症の拡大防止に必要とされる「密」な状態を回避するのが難しい中でも、保護者の理解・協力を得て運営上の工夫により安心・安全の運営を行います。</p>

令和 3年度の方針 (A c t i o n)

予算の方向性 (見直しの視点)	I. 事業コストの方向性	拡充
	II. 事業の改善の方向性	手段・方法の見直し (改善) ・実施主体の見直し
予算の方向性の理由・内容	<p>規模を拡充する永福南及び第二学童クラブを整備する荻窪・高円寺東・本天沼の4所を新たに委託するため、職員人件費の削減が図られる一方、学童クラブ委託料 (第二学童クラブの新設に伴う委託を含む) が増加するため、全体の事業費は拡充となります。</p> <p>なお、新型コロナウイルス感染症の今後の感染状況等を踏まえて、施設の感染予防策に必要な経費を適切に予算化する必要があります。</p>	

令和 2年度 杉並区事務事業評価表（2）

令和元年度 事業実施状況（D o）

整理番号 273

主な取組	内 容	規模	単位	事業費（千円）
	児童青少年センター事業		1	館
	児童館、子ども・子育てプラザ事業	41	館	16,438
	児童館中・高生事業	41	館	435
	放課後等居場所事業	4	校	78,351
	その他（管理運営費、非常勤職員報酬・賃金の支払等）			82,330
事業実績	<p>引き続き、児童青少年センター、児童館及び子ども・子育てプラザにおける児童健全育成事業を実施するとともに、区立施設再編整備計画に基づき、児童館機能の継承・発展を図るため、新たに下井草児童館を転換して子ども・子育てプラザ下井草の新規開設（令和元年9月）を行いました。また、平成31年4月から、小学生の放課後等の居場所として、桃井第五小学校及び桃井第二小学校で、放課後等居場所事業を開始しました。</p>			

令和元年度 評価と課題（C h e c k）

事業開始当初から現在までの環境の変化と事業に対する意見（期待・要望・苦情等）	<p>近年、児童館では、乳幼児親子と小学生の学童クラブ利用が大幅に伸びる一方、中・高校生の利用は減少傾向にあるなど、利用状況が変化してきています。限られたスペースの中で、幅広い年齢層のニーズを満たす事業・サービスを展開していくことが難しくなってきています。</p> <p>事業に対しては、「子ども・子育てプラザは乳幼児を連れて気軽にゆっくり過ごすことができる」、「放課後等居場所事業は、帰宅せずにそのまま放課後を過ごせるので子どもが移動するときの心配がなくなり、安心して遊びに出せる」などの声が寄せられる一方、「様々な年齢層の子どもや多世代が交流できる機会が増えるとよい」などの声が寄せられています。</p>
事業の今後（3～5年）の予測と方向性	<p>引き続き、児童館施設の再編整備を計画的に進め、子どもの発達段階に応じた居場所の充実・発展を図っていきます。</p>
計画（目標値）に対する実績（指標の分析等）	<p>新型コロナウイルスの感染予防及び感染拡大防止の観点から、児童青少年センター、児童館及び子ども・子育てプラザの利用自粛を求めたため、年間延べ利用者数は計画（目標値）に達しませんでした。</p>
評価と課題	<p>前年度の児童館の利用状況と比較すると、子ども・子育てプラザ下井草の乳幼児親子の利用が約3.5倍に、桃井第二小学校と桃井第五小学校における放課後等居場所事業の小学生の利用が約1.2倍になるなど、従来の児童館機能を適切に継承・発展することができました。</p> <p>今後とも、これらの実績等を踏まえ、児童館の再編整備の取組を的確かつ丁寧に進めていきます。</p>

令和 3年度の方針（A c t i o n）

予算の方向性（見直しの視点）	I. 事業コストの方向性	拡充
	II. 事業の改善の方向性	手段・方法の見直し（改善）
予算の方向性の理由・内容	<p>区立施設再編整備計画に基づき、放課後等居場所事業を新たに3小学校（東田小学校、松ノ木小学校、永福小学校）で実施します。</p> <p>児童館再編による職員人件費の削減が図られる一方、放課後等居場所事業の実施に係る経費（委託費）が増加する等のため、全体の事業費は拡充となります。</p> <p>なお、新型コロナウイルス感染症の今後の感染状況等を踏まえて、施設の感染予防に必要な経費を適切に予算化する必要があります。</p>	

令和 2年度 杉並区事務事業評価表（2）

令和元年度 事業実施状況（D o）

整理番号 275

主な取組	内 容	規模	単位	事業費（千円）
	杉並区・名寄市子ども交流会の開催	1	回	4,599
	杉並区・東吾妻町子ども交流会の開催	1	回	1,372
	その他（ ）			

事業実績

名寄市との交流会は、平成5年に名寄市（当時の風連町）の小学生を杉並区に招待することから始まり、現在は、子どもたちが相互に訪問・交流し友好を深めています。東吾妻町との交流会は、平成2年から実施しています。

【令和元年度】
 名寄市との交流会（名寄編：3泊4日、杉並編：3泊4日 参加児童各自治体25名・計50名）
 東吾妻町との交流会（東吾妻編：1泊2日、杉並編2泊3日 参加児童東吾妻24名、杉並25名・計49名）

令和元年度 評価と課題（C h e c k）

事業開始当初から現在までの環境の変化と事業に対する意見（期待・要望・苦情等）	当初は、交通実費等について参加者の一部負担がありましたが、平成24年度からは次世代育成基金活用事業として、参加費を徴収せずに実施しています。多くの児童の参加の機会を保障するため、一度参加した児童は、再び参加できないこととしています。 参加児童からは「貴重な体験ができた」、「友人が増えた」、「東京との違いを感じる事ができた」等の感想がありました。保護者からは、「短期間にも関わらず子どもの成長が感じられた」、「このような体験機会を増やしてほしい」等の意見が寄せられています。
事業の今後（3～5年）の予測と方向性	杉並区と交流自治体の子どもたちが、相互の地域を訪れ、さまざまな体験や交流を行う活動として、大変貴重な機会の一つになっている事業であり、今後も交流自治体との連携し、本事業を継続していきます。
計画（目標値）に対する実績（指標の分析等）	参加を希望する児童数が定員を超える状況であり、抽選により参加者を決定しています。
評価と課題	本事業は、杉並区と交流自治体の子どもたちが、一度の交流会で両方の自治体に訪問する形で実施しており、子どもたちは、子ども同士の交流だけでなく、お互いの文化や自然等にも直接触れることができ、将来にわたる友好関係の礎になっています。 一方で、交流会の日数を確保するため、夏休み期間に実施が限られ、近年の猛暑への適切な対応が課題となっています。また、杉並区では、参加希望者が非常に多く、毎年、参加できない子どもが多数出ていますが、交流自治体側は現在の定員を増やすことが難しいとの声もあり、区民ニーズにどのように対応していけるかが課題となっています。 なお、令和2年度については、新型コロナウイルス感染拡大のため、中止しました。

令和 3年度の方針（A c t i o n）

予算の方向性（見直しの視点）	I. 事業コストの方向性	現状維持
	II. 事業の改善の方向性	手段・方法の見直し（改善）
予算の方向性の理由・内容	令和3年度においても、現在の交流会の実施方法を基本とし、事業を実施していきます。新型コロナウイルス感染症の感染状況等によりますが、延期した東京オリンピック2020の開催にあわせ、競技種目の観戦や交通手段の確保など、事業の実施方法等を見直す必要があります。	

令和 2年度 杉並区事務事業評価表 (2)

令和元年度 事業実施状況 (D o)

整理番号 281

主な取組	内 容	規模	単位	事業費 (千円)
	基金の積立		1	回
	基金活用事業助成金の交付	7	件	5,323
	次世代育成基金活用事業実施報告書の作成	8,000	部	264
	寄附募集チラシの作成	21,600	部	190
	その他 (寄附者宛御礼状及び実施報告書の送付、啓発用消耗品の購入)			575

事業実績

区主催事業7件を予定し、6件を実施 (新型コロナウイルス感染拡大防止のため1件中止) のほか、民間事業者による提案事業7件を実施しました。これらの基金活用事業に合計690名 (前年度749名) の児童・生徒が参加しました。

寄附者の裾野を広げることを目的に、区広報紙への掲載やリーフレット配布のほか、敬老会等のイベント時に呼びかけ等を行った結果、基金への寄附は、合計1,708件/18,308,775円 (前年度1,802件/13,625,432円) となりました。

令和元年度 評価と課題 (C h e c k)

事業開始当初から現在までの環境の変化と事業に対する意見 (期待・要望・苦情等)	<p>平成24年度に基金開設。平成27年度より次世代育成基金活用事業助成を開始</p> <p>【寄附件数/寄附額】(H24~R1年度までの総数: 6,900件/125,630,302円)</p> <p>H29: 1,275件/23,756,150円 H30: 1,802件/13,625,432円 R1: 1,708件/18,308,775円</p> <p>【基金活用事業助成による事業延数】(H27~30: 13件 R1: 7件)</p> <p>基金活用事業の参加者からは「普段は体験できないことを体験して、新しいことに関心が持てた」「他の事業にも参加してみたい」などの肯定的な意見と寄附者への感謝の言葉が届いています。</p> <p>また、寄附者からは「青少年の将来に役立つことに活用してほしい」「子どもたちの感謝の言葉が嬉しい」などの声が寄せられています。</p>
事業の今後 (3~5年) の予測と方向性	<p>基金活用事業に参加を希望する児童・生徒は、今後も増加すると見込まれます。</p> <p>また、引き続き基金活用事業のPR等に取り組むことで、基金へ寄附する区民の輪を一層広げることにつながります。</p>
計画 (目標値) に対する実績 (指標の分析等)	<p>基金活用事業に参加する児童・生徒数は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のために一部事業を中止したことなどにより成果指標の目標値を下回っています。</p> <p>また、その年の助成対象事業の定員により参加者数は増減しますが、各事業に対する参加申込者が定員以下となることはほとんどありません。</p> <p>寄附者数については、イベント開催時の募金者など増加傾向にあり、目標値を上回っています。</p>
評価と課題	<p>基金活用事業への参加者数や本基金への寄附件数が一定の高水準で維持されていることから、参加者・寄附者ともに本基金への理解が深まっているものと評価できます。</p> <p>一方で、基金活用事業を継続するためには一定額の基金を維持する必要があります。1人でも多くの方に基金の趣旨をご理解いただき、末永く支援をいただける仕組の構築と、様々なPRを行いながら寄附者の裾野を広げられるよう、寄附勧奨の取組について見直しを図っていきます。</p>

令和 3年度の方針 (A c t i o n)

予算の方向性 (見直しの視点)	I. 事業コストの方向性	現状維持
	II. 事業の改善の方向性	手段・方法の見直し (改善)
予算の方向性の理由・内容	<p>引き続き、各基金活用事業の実施状況等を踏まえて事業内容の改善・充実や効率的・効果的な寄附勧奨の取組に努めていくこととし、事業コストについては現状維持を見込んでいます。</p>	

令和 2年度 杉並区事務事業評価表 (2)

令和元年度 事業実施状況 (D o)

整理番号 289

主な取組	内 容	規模	単位	事業費 (千円)
	子どもプレーパーク事業委託費の支出		1	団体
	その他 ()			
事業実績	平成30年度から委託事業として実施し、区立公園を会場としたプレーパーク「杉並冒険遊び場」を開催（柏の宮公園36回、4,921人参加、井草森公園21回、4,504人参加、その他の公園6回、1,074人参加）しました。前年度と比較し、参加者は天候の影響もあり、延べ1,217人減りました。			

令和元年度 評価と課題 (C h e c k)

事業開始当初から現在までの環境の変化と事業に対する意見（期待・要望・苦情等）	区とNPO法人との協働提案事業として平成27年7月から事業を開始し、平成30年度からは区の委託事業として継続しています。令和元年度までに、延べ259回、43,913名の参加者がありました。 【実施回数及び参加者】 平成29年度：55回、9,637人 平成30年度：61回、11,716人 令和元年度：63回、10,499人 参加した児童の関係者からは「普段の公園の利用の中では得られない貴重な体験の場になった」、「実施会場や開催日を増やして欲しい」といった意見が寄せられています。
事業の今後（3～5年）の予測と方向性	参加人数は天候等の要因より変動がありますが、子どもたちの健全な育成に一定の効果が期待されることから、今後も継続して実施していきます。
計画（目標値）に対する実績（指標の分析等）	令和元年度は天候に恵まれない回が多かったため、参加者数が減少しました。
評価と課題	子どもを屋外で安全に遊ばせることの区民ニーズは高いものの、天候に左右されるため、安定して事業を開催するための工夫が必要です。特に新型コロナウイルス感染拡大の中では、より安全な遊び方の工夫が求められています。

令和 3年度の方針 (A c t i o n)

予算の方向性（見直しの視点）	I. 事業コストの方向性	現状維持
	II. 事業の改善の方向性	手段・方法の見直し（改善）
予算の方向性の理由・内容	引き続き利用者の満足が得られるよう、実施場所や回数を見直すほか、新型コロナウイルス感染症対策に留意し、より安全な事業実施に向けて工夫していきます。	

令和 2年度 杉並区事務事業評価表（2）

令和元年度 事業実施状況（D o）

整理番号 305

主な取組	内 容	規模	単位	事業費（千円）
	学童クラブ受入枠拡大のための改修工事（今川北、東田）	2	所	33,956
	学童クラブ受入枠拡大のための施設修繕（堀ノ内南）	1	所	837
	初度消耗品、備品等の購入	6	所	4,938
	その他（ ）			
事業実績	今川北、東田、桃五、荻窪学童クラブの育成室の拡張等を行うとともに、小学生の放課後等の居場所機能などを移転した後の堀ノ内南、浜田山児童館を学童クラブ専用施設として整備し、306人の受入枠の拡大を図りました。			

令和元年度 評価と課題（C h e c k）

事業開始当初から現在までの環境の変化と事業に対する意見（期待・要望・苦情等）	<p>女性の社会進出による共働き家庭の増加や核家族化の進展等による保育需要の高まりに連動し、学童クラブ需要も年々増加しています。</p> <p>区の学童クラブにおいては、小学校内での実施を基本とし、学校改築に合わせた整備や余裕教室の活用などにより、児童の安全と今後の需要に応じた育成環境を確保していくこととしました。それまでの間、増加する学童クラブ需要に対応するため、児童館施設の改修等により受入数を拡大していくこととしています。</p>
事業の今後（3～5年）の予測と方向性	当面は保育需要に連動して、学童クラブ需要も増加していくと予測されるため、各学童クラブの状況に応じた受入枠の拡大等を図る必要があります。
計画（目標値）に対する実績（指標の分析等）	需要数を再精査し、計画当初の2学童クラブに加え、緊急度の高い4所の学童クラブの対応を追加的に行ったことにより、改修実施児童館（クラブ）数、児童館（クラブ）改修等による受入枠の拡大数とともに、計画目標値を上回る実績となりました。
評価と課題	6所の学童クラブの育成室の拡張等により、受入枠を拡大し、平成31年4月1日時点で待機児童が発生していた今川北学童クラブ、東田学童クラブ、堀ノ内南学童クラブについて、令和2年4月の待機児童が解消するとともに、桃五等3学童クラブについては、将来の需要予測を踏まえ定員の拡充を図ることができました。

令和 3年度の方針（A c t i o n）

予算の方向性（見直しの視点）	I. 事業コストの方向性	拡充
	II. 事業の改善の方向性	手段・方法の見直し（改善）・実施主体の見直し
予算の方向性の理由・内容	令和2年度に予定している荻窪第二学童クラブ、本天沼第二学童クラブ、高円寺東第二学童クラブ、永福南学童クラブの整備を進め、待機児童の解消を図るとともに、改めて、中・長期的な需要数の推計のもと、各学童クラブの実情に応じた受入枠の拡大を図るために、予算拡充が必要となります。	

令和 2年度 杉並区事務事業評価表（2）

令和元年度 事業実施状況（D o）

整理番号 306

主な取組	内 容	規模	単位	事業費（千円）
	改築工事			107,432
	工事監理			2,083
	初度消耗品、備品等の購入			1,192
	その他（ ）			
事業実績	高円寺学園の竣工に伴い、令和2年4月、高円寺学園学童クラブを開設し、受入数を128人から198人に拡大しました。			

令和元年度 評価と課題（C h e c k）

事業開始当初から現在までの環境の変化と事業に対する意見（期待・要望・苦情等）	高円寺北学童クラブ及び高円寺中央学童クラブを高円寺地域小中一貫教育校の校舎内に移転して、学童クラブを整備し、育成環境の充実と受入数の拡大を図りました。 高円寺北児童館施設の跡地については、解体工事のうえ、認可保育所として民間事業者が施設整備を行います。高円寺中央児童館については、休館・改修工事のうえ、子ども・子育てプラザに転用します。
事業の今後（3～5年）の予測と方向性	令和2年4月に開設した高円寺学園学童クラブの円滑な運営を図っていきます。
計画（目標値）に対する実績（指標の分析等）	計画どおり、令和2年4月に高円寺学園学童クラブを開設しました。
評価と課題	運営委託事業者を決定し、事業運営に係る準備委託も順調に実施することができました。

令和 3年度の方針（A c t i o n）

予算の方向性（見直しの視点）	I. 事業コストの方向性	その他・対象外
	II. 事業の改善の方向性	対象外
予算の方向性の理由・内容	令和2年4月に高円寺学園学童クラブを開設したため、本事務事業は完了となります。	

令和 2年度 杉並区事務事業評価表（2）

令和元年度 事業実施状況（D o）

整理番号 307

主な取組	内 容	規模	単位	事業費（千円）
	基本設計			
	その他（ ）			
事業実績	平成30年度に策定した改築基本計画に基づき、基本設計を行いました。			

令和元年度 評価と課題（C h e c k）

事業開始当初から現在までの環境の変化と事業に対する意見（期待・要望・苦情等）	<p>女性の社会進出による共働き家庭の増加や核家族化の進展等による保育需要の高まりに連動し、学童クラブ需要も年々増加しています。</p> <p>区の学童クラブにおいては、小学校内での実施を基本とし、学校改築に合わせた整備や余裕教室、敷地の一部の活用、児童館施設の改修等による受入枠の拡大などにより、今後の需要に応じた育成環境の整備に取り組んでいます。</p> <p>富士見丘小学校改築検討懇談会等で保護者や地域の方々からいただいた様々なご意見を踏まえ、計画を進めています。</p>
事業の今後（3～5年）の予測と方向性	令和3年度から改築工事を実施し、令和5年4月に（仮称）富士見丘小学校学童クラブを開設する予定です。
計画（目標値）に対する実績（指標の分析等）	計画どおり、基本設計を実施しました。
評価と課題	計画どおり、基本設計を実施しました。令和2年度は実施設計を進めます。

令和 3年度の方針（A c t i o n）

予算の方向性（見直しの視点）	I. 事業コストの方向性	拡充
	II. 事業の改善の方向性	現状維持
予算の方向性の理由・内容	令和5年4月の開設に向け、令和2年度に実施設計を実施し、令和3年度から、富士見丘小学校学童クラブの建設工事を進めていきます。	

令和 2年度 杉並区事務事業評価表 (2)

令和元年度 事業実施状況 (D o)

整理番号 308

主な取組	内 容	規模	単位	事業費 (千円)
	改修工事			
	初度消耗品、備品等の購入			1,702
	その他 ()			
事業実績	計画どおり移転整備を進め、令和2年4月、杉九学童クラブを開設し、受入数を150人から160人に拡大しました。			

令和元年度 評価と課題 (C h e c k)

事業開始当初から現在までの環境の変化と事業に対する意見 (期待・要望・苦情等)	<p>女性の社会進出による共働き家庭の増加や核家族化の進展等による保育需要の高まりに連動し、学童クラブ需要も年々増加しています。</p> <p>区の学童クラブにおいては、小学校内での実施を基本とし、学校改築に合わせた整備や余裕教室、敷地の一部の活用などにより、今後の需要に応じた育成環境の整備に取り組んでいます。</p> <p>杉九学童クラブ事業者選定委員会等でいただいた、保護者や地域の方々の様々なご意見を踏まえ、具体化を図りました。</p>
事業の今後 (3~5年) の予測と方向性	令和2年4月に開設した杉九学童クラブの円滑な運営を図っていきます。
計画 (目標値) に対する実績 (指標の分析等)	計画どおり、令和2年4月に杉九学童クラブを開設しました。
評価と課題	運営委託事業者を選定し、事業運営に係る準備委託等を計画どおり実施し、令和2年4月に杉九学童クラブを開設しました。

令和 3年度の方針 (A c t i o n)

予算の方向性 (見直しの視点)	I. 事業コストの方向性	その他・対象外
	II. 事業の改善の方向性	対象外
予算の方向性の理由・内容	令和2年4月に杉九学童クラブを開設したため、本事務事業は完了となります。	

令和 2年度 杉並区事務事業評価表（2）

令和元年度 事業実施状況（D o）

整理番号 309

主な取組	内 容	規模	単位	事業費（千円）
	実施設計			10,381
	建設工事			99,915
	工事監理			1,792
	その他（ ）			
事業実績	阿佐谷児童館を移転し、阿佐谷地域区民センターとの統合を図り、複合施設として整備するための実施設計を行いました。また、住民説明会を開催する等、地域住民の意見を聞きながら工事に着手しました。			

令和元年度 評価と課題（C h e c k）

事業開始当初から現在までの環境の変化と事業に対する意見（期待・要望・苦情等）	杉並第一小学校の近隣病院の移転・建替え計画を受けて、平成29年度に杉並第一小学校等施設整備等方針を策定しました。 工事に際して騒音や振動、安全確保に関する要望等があります。
事業の今後（3～5年）の予測と方向性	令和4年度に阿佐谷児童館を移転し、阿佐谷地域区民センターとの複合施設として運営を開始する予定です。
計画（目標値）に対する実績（指標の分析等）	当初の計画どおり実施設計を完了するとともに、建設工事に着手しました。
評価と課題	当初の計画どおり実施設計を完了するとともに、建設工事に着手しました。 工事に関する要望への対応は、説明会等で周知してきたところですが、引き続き丁寧な近隣住民への対応に努め、理解と協力を得ていきます。

令和 3年度の方針（A c t i o n）

予算の方向性（見直しの視点）	I. 事業コストの方向性	拡充
	II. 事業の改善の方向性	手段・方法の見直し（改善）・実施主体の見直し
予算の方向性の理由・内容	令和4年度の運営開始に向けて、阿佐谷児童館と阿佐谷地域区民センターとの複合施設の建設工事を進めます。	